

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01071

研究課題名（和文）エスニシティと流通の交錯 - 近代ユーラシア経済から見たネットワーク

研究課題名（英文）Intersection of ethnic groups and commercial distribution: networks in the modern Eurasian economy

研究代表者

森永 貴子 (Morinaga, Takako)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：00466434

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本科研はイギリス史、ポーランド史、ロシア史、中央アジア史、イラン史の各分野の専門家であるメンバーで各研究成果について情報提供し合い、ユーラシア地域を中心として「境界線を越えて移動する人・物・情報」について検討を行った。これにより、各分野で知られていた先行研究の情報をメンバー間で共有しつつ、国家的枠組みや境界内の動きとは異なる人の移動性・流動性の実態を検討できた。各メンバーの専門研究はさらなる史料検討を要するが、それぞれの分野における地域的特性のみならず、共通性についても知見を深めたことで、今後のグローバル・ヒストリー研究のアプローチの一つとして発展の可能性があると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研ではユーラシア各地の専門家の共同研究により、越境する人・物・情報を対象にしつつ、国家や制度の枠組みだけでは捉えられない水面下のグローバルな繋がりを明らかにしようと試みた。これにより、近現代のグローバル化が民間の商業、文化の伝播などの現象とも関連し合っており、同時に境界線と人々の帰属の移動が頻繁であった近世の歴史現象とも共通性があることを追求できた。また国政史では取り上げられにくい外部との接触が、民族的・物理的・文化的交流や実務を伴っていたことも重要な点である。本科研の成果はさらに検討の余地があるが、現代のツーリズム、ナショナリズムなど社会問題への新たな知見としても適用可能と考えられる。

研究成果の概要（英文）：We did joint research with members who are experts in the fields of British, Polish, Russian, Central Asian, and Iranian history, and mainly focuses on the Eurasian region. We analyzed and considered about ethnic people, objects and information, which moved beyond borders. Through this research, members could share previous research works that was known separately in each field, while examining the actual state of historical mobility and fluidity of people, independent of movements within national frameworks and boundaries. Although each member's specialized research requires further examination of historical materials, they have deepened their knowledge not only of regional characteristics in their respective fields but also of common characteristics. these analyses can be used as one of the approaches for future global history research.

研究分野：ロシア社会経済史

キーワード：エスニシティ 境界線 越境 商品 情報 文化

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本科研究当初の動機は、研究代表者が過去の科研費研究を通じてロシアの毛皮交易、茶貿易などの近世・近代流通を研究してきたことによるものである。直接関係するものとしては、研究代表者が主催する科研費基盤研究 C「近代ユーラシア流通におけるロシア商人と茶貿易」(2013-2015) 基盤研究 C「19 世紀ロシア茶貿易とグローバル市場: 会計帳簿史料の分析」(2017-2021) がある。上記科研において、研究代表者はシベリア商人、モスクワ商人を中心に具体的な取引の記録、商人の繋がりについて分析してきた。一方で、研究分担者として基盤研究 S「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」(2009-2013、代表: 羽田正) 基盤研究 B「西洋近代の海洋世界と「海民」のグローバル循環 北大西洋海域から」(2016-2019) で共同研究に参加し、グローバル・ヒストリー研究の一環として民族、流通の観点から他分野の研究者と情報交換を行い、その成果を複数の論文、分担執筆の形で発表した。これらの研究を通し、近代のロシア帝国においてロシア商人だけでなく多様な民族の商人が活動していること、茶貿易のような世界商品の流通では外国人商人の役割も重要であることが浮き彫りとなった。

### 2. 研究の目的

以上の過去の研究成果から、代表者は特にユーラシア地域における広域流通の問題を深めることに関心を持ち、政治史の文脈とは大きく異なるエスニシティとの関係について分析することを目的とした。当初はロシア帝国で特殊な役割を果たしたユダヤ人など、特定民族を視野に入れた研究を計画した。しかし経済史的視点からこのようなテーマを論じるには越境する商人と具体的交易について広く分析する必要があり、ロシア商人を中心に研究を行っている研究代表者の知見を超えている。そのため、あらかじめ各地域の専門家を研究分担者として迎え、越境する交易者と民族にどのような関連性があるか、情報を共有しつつ検討を行い、違いや共通性を明らかにすることを試みた。

### 3. 研究の方法

研究方法として以下の地域ごとに班分けを行い、研究会を通じて各研究成果を検討することとした。ヨーロッパ班は金澤周作(京都大学、イギリス海洋史) 福元健之(福岡大学、ポーランド史) ロシア班は森永貴子(立命館大学、ロシア社会経済史) 塩谷昌史(大阪公立大学、ロシア経済史) 中央アジア班は塩谷哲史(筑波大学、中央アジア史) である。また 2023 年には、オブザーバー参加であったアフガニスタン、ペルシアの研究者、小澤一郎(立命館大学、近代イラン史) を新たな研究分担者に加え、西アジアを視野に入れた検討が可能となった。

本科研究で重視する点は、各地域の研究で他地域の専門家に知られていない情報を共有し、新たな視点を見出すことである。従って専門的な研究成果が他地域との比較でどのような共通性があるか、もしくは地域性が見いだされるかについて検討することを主な課題とした。

### 4. 研究成果

【研究会・学会口頭報告】2020 年度はコロナによる問題から研究会開催や海外研究が制限され、Zoom による書評会のみ行った。2021 年以降は科研研究会を不定期に開催し、各メンバーの研究成果を報告する勉強会を開催した。その間、早稲田大学ロシア東欧研究所、島根県立大学、北海道大学のシンポジウムおよび書評会に研究代表者が参加した。

・2021 年度:

(1)2021/05/22 (早稲田大学ロシア史研究所研究会「ヨーロッパのアジア進出における外交と条約」, Zoom 開催、科研費基盤研究 A「外交の世界史の再構築」(代表: 松方冬子) 科研費基盤研究 C「エスニシティと流通の交錯」(代表: 森永貴子) 共催) 大東敬典「絹から砂糖へ オランダ東インド会社の外交と商業」, 塩谷哲史「ロシア帝国の中央アジア進出とヒヴァ・ハン国との「条約」(1843 年)」

(2)2021/07/11 (エスニシティ研究会、Zoom 開催) 金澤周作「船乗りからみるエスニシティと流通の交錯」他

(3)2021/12/25 (エスニシティ研究会、於: 立命館大学) 森永貴子「キャフタの密貿易と監視・役人・住民に関する新たな視座」その他

・2022 年度:

(1)2022/06/12 (エスニシティ研究会、於: 東洋文庫) 塩谷哲史「18 世紀アストラハンのアルメニア商人」, 塩谷昌史「第 1 回ロシア国勢調査(1897 年)から見る、アストラハン県とカザン県」

(2)2023/02/14(NIUH、於: 島根県立大学、Zoom 開催) 書評会『論集 北東アジアにおける近代的空間: その形成と影響』に研究代表者が参加、討論

(3)2023/03/21 (エスニシティ研究会、於: 京都大学) 金澤周作「地中海の虜囚「貿易」 19 世紀初頭のイギリス人船員身請け費用の明細書から」, 山内瑞貴「19 世紀後半インドからブハラへのインド茶の流通」

・2023 年度:

- (1)2023/07/22 (エスニシティ研究会、Zoom 開催) 小澤一郎「近代マクラーンにおける交易・交流とバルーチ人」、森永貴子「ドイツ系イギリス人 Brandt 家とロシア・バルト海ビジネス: LSE 会計文書を手掛かりに」
- (2)2023/11/18 (エスニシティ研究会、於: 立命館大学) 書評会: マールテン・ヴァン=ヒンダーアハター、ジョン・フォックス編著、金澤周作・桐生裕子監訳『ナショナリズムとナショナル・インディファレンス』ミネルヴァ書房、2013。同書は研究分担者・金澤周作と福元健之が翻訳・監修を行っており、科研テーマに関わる重要書籍として書評検討会を行った。
- (3)2023/12/26 (科研費基盤 A「外交の世界史の再構築」(代表: 松方冬子)研究会、於: 東京史料編纂所) 森永貴子「ロシア帝国の関税政策とポーランド」
- (4)2024/01/27 (エスニシティ研究会、於: 立命館大学) 塩谷哲史「18 世紀中葉アストラハンのアルメニア商人 日用品の取引に注目して」、塩谷昌史「ロシア第 1 回国勢調査に関わる諸問題への対応について」
- (5)2024/02/13 (北極域研究セミナー「シベリアとアラスカ 北極圏の好敵手同士の経済と社会」、於: 東京駅カンファレンスセンター) 森永貴子「ロシア領アメリカとしてのアラスカとその売却」

【発表論文・文献】二重下線は研究代表者、一重下線は研究分担者

#### 2021 年度

- ・翻訳論説「キャフタ税関: 密輸とその対策」レオニート・ヴラジーミロヴィチ・クラス、翻訳: 森永貴子監修、谷川春菜翻訳、新井幸康協力『史滴』43 号、2021 年 12 月、228-262 頁。  
同翻訳は国境交易所としてのキャフタにおける中国人、ロシア人、ユダヤ人の密輸の実態を史料から明らかにしたものである。(査読有)
- ・塩谷哲史「19 世紀中葉のヒヴァ=ロシア関係再考 シュクルッター・アガのロシア、オスマン両帝国への派遣について」『西南アジア研究』92 巻、2021 年 7 月、29-47 頁(査読有)
- ・Shioya, Akifumi, "The Association between the Descendants of Sufi Saint Sayyid Ata and the Khans of Khiva at the Beginning of the 19th Century", *Central Asiatic Journal* 64(1-2) 2021, pp.183-195. (査読有)
- ・森永貴子「清の門戸開放後におけるロシアの茶貿易 キャフタ・漢口の流通を材料に」李曉東・李正吉編著『論集 北東アジアにおける 近代的空間の形成とその影響』明石書店、2022 年 3 月、565 - 598 頁。同論集は 2023 年 2 月 14 日に島根県立大学で書評会が開催された。

#### 2022 年度

- ・Shioya, Akifumi, "Islam and the Nomadic Political Tradition in the 19th-Century Khanate of Khiva", *Oriente Moderno* 102, 2022, pp.68-87. (査読有)
- ・森永貴子「北カリフォルニアに渡ったロシア人 ロス要塞を建設したトチマ人クスコフ」田中きく代・遠藤泰生・金澤周作・中の博文・肥後本芳男編著『海のグローバル・サーキュレーション』関西学院大学出版会、2023 年 3 月、397-400 頁。
- ・金澤周作「19 世紀初頭の北アフリカにおけるイギリス人の遭難と虜囚買戻し」『海のグローバル・サーキュレーション』関西学院大学出版会、2023 年 3 月、19-44 頁。

#### 2023 年度以降

- ・森永貴子「ペテルブルク・キャフタ・漢口 露清の茶貿易と長崎」前田拓編、姫野順一監修『抹茶革命と長崎 「茶のチカラ」が 21 世紀の Healthy&Cool 日本茶文化を創った』長崎文献社、2023 年 4 月、136 - 140 頁
- ・森永貴子「シベリアの征服と河川、毛皮貿易」『歴史地理教育』957 号、2023 年 7 月、74 - 79 頁。
- ・マールテン・ヴァン=ヒンダーアハター、ジョン・フォックス編著、金澤周作・桐生裕子監訳『ナショナリズムとナショナル・インディファレンス』ミネルヴァ書房、2023 年 6 月。
- ・塩谷昌史「超限戦」としてのウクライナ紛争: 2022 年 2 月~9 月』『経済学雑誌』123 巻 2 号、2023 年 4 月、55-79 頁。(査読有)
- ・Shioya, Akifumi, " Shi'ite Captive Release Negotiations in Khiva: A Nexus of Khivan-Iranian and Anglo-Russian Relations", *Acta Slavica Iaponica* 43, 2023, pp.73-93. (査読有)
- ・福元健之『医師の「献身」: ポーランド建国と草の根知識人 1890-1920』京都大学学術出版会、2024 年 3 月
- ・森永貴子「ロシアの北太平洋進出とアラスカ 毛皮資源と新天地を求めた人々」服部倫卓・吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月、90 - 95 頁。  
上記刊行の成果を基に、2024/02/13 に開催されたのが北極域研究セミナー「シベリアとアラスカ 北極圏の好敵手同士の経済と社会」である。

#### 【その他研究活動】

研究代表者は本科研で研究分担者との情報交換を基に、2022 年 3 月にポーランドの文書館調査を行った。さらに 2023 年 6~9 月にロンドン、ワルシャワ、ルブリン、クラクフに滞在し、同

年 9 月にウズベキスタン、2024 年 3 月にヘルシンキで資料調査を行い、税関、流通ルート、商人の越境問題、ドイツ系イギリス商人 Brandt に関する史料などを入手した。また現在それらの情報の整理作業を行い、近日中に論文を投稿予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Shioya, Akifumi	4. 巻 43
2. 論文標題 Shi'te Captive Release Negotiations in Khiva: A Nexus of Khivan-Iranian and Anglo-Russian Relations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Acta Slavica Iaponica	6. 最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷 昌史	4. 巻 123-2
2. 論文標題 「超限戦」としてのウクライナ紛争：2022年2月~9月	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 55~79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20230419-003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 957
2. 論文標題 シベリアの征服と河川、毛皮貿易	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 74-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷 昌史	4. 巻 123-1
2. 論文標題 新しい経済史の理論に向けて：玉木俊明の概念の可能性を探る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 99~115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20221207-001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shioya, Akifumi	4. 巻 64 (1-2)
2. 論文標題 The Association between the Descendants of Sufi Saint Sayyid Ata and the Khans of Khiva at the Beginning of the 19th Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Central Asiatic Journal	6. 最初と最後の頁 183-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13173/centasiaj.64.1-2.0183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塩谷 哲史	4. 巻 92
2. 論文標題 19世紀中葉のヒヴァ=ロシア関係再考 --シュクルッラー・アガのロシア, オスマン両帝国への派遣について--	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 30~48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/seinan-asia-kenkyu_92_30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 レオニート・ヴラジーミロヴィチ・クラス、 翻訳: 森永貴子監修、谷川春菜翻訳、新井幸康協力	4. 巻 43
2. 論文標題 翻訳論説「キャフタ税関: 密輸とその対策 (18-19世紀)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史滴 (早稲田大学東洋史懇話会編)	6. 最初と最後の頁 228-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 塩谷哲史
2. 発表標題 ロシア帝国の中央アジア進出とヒヴァ・ハン国との「条約」 (1843年)
3. 学会等名 ロシア東欧研究所オンライン研究会「ヨーロッパのアジア進出における外交と条約」 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森永貴子
2. 発表標題 ドイツ系イギリス人Brandt家とロシア・バルト海ビジネス：LSE会計文書を手掛かりに
3. 学会等名 「エスニシティと流通の交錯」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森永貴子
2. 発表標題 ロシア帝国の関税政策とポーランド
3. 学会等名 「外交の世界史」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森永貴子
2. 発表標題 ロシア領アメリカとしてのアラスカとその売却
3. 学会等名 北極域研究セミナー「シベリアとアラスカー北極圏の好敵手同士の経済と社会」（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小澤一郎
2. 発表標題 近代マクラーンにおける交易・交流とバルーチ人
3. 学会等名 「エスニシティと流通の交錯」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塩谷昌史
2. 発表標題 ロシア第1回国勢調査に関わる諸問題への対応について
3. 学会等名 「エスニシティと流通の交錯」研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 塩谷哲史
2. 発表標題 18世紀中葉アストラハンのアルメニア商人 日用品の取引に注目して
3. 学会等名 「エスニシティと流通の交錯」研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ozawa, Ichiro
2. 発表標題 Mercantile Communities and Commercial Practices in Muscat at the Turn of the 19th and 20th Centuries
3. 学会等名 2023 ACC International Academic Symposium: Rediscovering Southwest Asia: Urban Culture and Lifestyle (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小澤一郎
2. 発表標題 19世紀イランの兵員徴用関係写本の検討：アミーレ・キャピールの軍制改革をめぐって
3. 学会等名 東洋史研究会大会
4. 発表年 2023年



## 〔図書〕 計6件

1. 著者名 福元健之	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 398
3. 書名 医師の「献身」：ポーランド建国と草の根知識人 1890-1920	

1. 著者名 服部倫卓・吉田睦編著、(森永貴子)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 ロシア極東・シベリアを知るための70章	

1. 著者名 前田拓編、姫野順一監修、(森永貴子)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 長崎文献社	5. 総ページ数 210
3. 書名 抹茶革命と長崎 「茶のチカラ」が21世紀のHealthy&Cool日本茶文化を創った	

1. 著者名 マールテン・ヴァン＝ヒンダーアハター、ジョン・フォックス編著、金澤周作・桐生裕子監訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 432
3. 書名 ナショナリズムとナショナル・インディファレンス	

1. 著者名 田中きく代・遠藤泰生・金澤周作・中野博文・肥後本芳男編著、(森永貴子)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 海のグローバル・サーキュレーション	

1. 著者名 李曉東・李正吉編著、(森永貴子)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 674
3. 書名 論集 北東アジアにおける近代的空間	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究代表者は本科研で研究分担者との情報交換を基に、2022年3月にポーランドの文書館調査を行った。さらに2023年6～9月にロンドン、ワルシャワ、ルブリン、クラクフに滞在し、同年9月にウズベキスタン、2024年3月にヘルシンキで資料調査を行い、税関、流通ルート、商人の越境問題、ドイツ系イギリス商人Brandtに関する史料などを入手した。また現在それらの情報の整理作業を行い、近日中に論文を投稿予定である。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	塩谷 哲史  (Shioya Akifumi)  (30570197)	筑波大学・人文社会系・准教授   (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塩谷 昌史  (Shiotani Masachika)  (70312684)	大阪公立大学・大学院経済学研究科・教授    (24405)	
研究分担者	金澤 周作  (Kanazawa Shusaku)  (70337757)	京都大学・文学研究科・教授    (14301)	
研究分担者	福元 健之  (Fukumoto Kenshi)  (70802255)	福岡大学・人文学部・講師    (37111)	
研究分担者	小澤 一郎  (Ozawa Ichiro)  (50817210)	立命館大学・文学部・准教授    (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関